助成番号：434

第7回世界畜産学会議（WCAP）出席発表及びアルバータ大学・ブリティッシュコロンビア大学との共同研究打合せ

高　橋　潤　一
畜産管理学科家畜生産管理学講座

1．目　　的

第7回世界畜産学会議出席発表およびブリティッシュコロンビア大学農学部畜産学科とアルバータ大学農林学部畜産学科とのエネルギー代謝に関する共同研究

2．期　　間

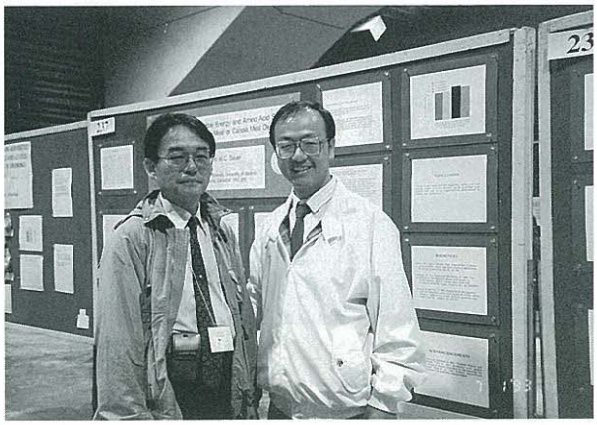
1993年6月25日～1993年7月10日

3．場　　所

カナダ，ブリティッシュコロンビア州バンクーバー市ブリティッシュコロンビア大学およびアルバータ州エドモントン市アルバータ大学

4．内　　容

世界畜産学会議（World Conference on Animal Production, WCAP）は世界畜産学会（World Association of Animal Production, WAAP）が主催し，5年に1度開催される大規模な会議であり，今回で7回目を数える。WAAPはアメリカ，タイ，ケニヤ，オーストラリア，カナダ，中国，ヨーロッパ，インド，日本，韓国，中南米，マレーシア，ナイジェリア，フィリッピン，南アフリカおよびジンバブエの17畜産学会・連合が加盟する。第5回WCAPは1983年に日本畜産学会との共催で東京で開催された。会長はWCAP開催国から選ばれる慣例で，当時のWAAP会長は先日不慮の事故で逝去された本学の西川義正元学長が務めた。今回の会議は第6回フィンランド，ヘルシンキ会議の後を受け，カナダ，アルバータ州エドモントン市のコンベンションセンターにおいて開催され，72カ国から600余名



大会会場で中国青島出身の研究者と筆者

が参加した。WAAP 会長は今回の共同研究の相手であるブリティッシュコロンビア大学の R. Blair 教授で，アルバータ大学 B. A. Young 教授が大学委員長を務めた。Young 教授は 3 年前，客員研究員としてアルバータ大学に滞在した際に，お世話になった先生で，1989 年に本学で開催した寒冷地農業技術に関する国際シンポジウムのカナダ側の代表者として来学し，本学の多くの教官と研究交流を行った。今回の WCAP 開催直前に，アルバータ大学からオーストラリア，クイーンズランド大学に転出した。転出後もクイーンズランド大 Young 研究室との共同研究は継続している。今回の WCAP のメインテーマは「持続的農業における家畜―地球全体の挑戦―」であり，8 つのサブテーマについて 30 題の招待講演があった。アジアからもシンガポール，インドおよびフィリッピンの研究者が途上国における飼料資源・家畜の遺伝資源に関する持続的農業開発をテーマに講演した。また一般発表は口頭 151 題，ポスター 295 題であった。筆者は「Prophylactic effect of different levels of L-cysteine on nitrate-nitrite poisoning」の題で発表を行った。今回，わざわざ筆者の発表を聴く目的で参加したというドイツ，アメリカおよび韓国の研究者に会った。とくにドイツに留学して筆者の研究を追試して学位を取得したという高麗大学の教授からは 2 時間以上も食い下がられ，鋭い質問を浴びせられたが，日本国内の学会ではこのような経験はない。またアルバータ大学ではかつて滞在中に実験室で一緒に過ごした中国，中近東，東欧，アフリカ諸国等から留学している大学院学生，ポスドクあるいはリサーチアソシエイトとして研究している若い研究者達とも旧交を温めることができたことが何よりも嬉しかった。会議自体は進行等で参加者の間で不満や業者まかせで盛り上がりにかけたとの批判も聴かれたが，カナダ国内の学会も概ね似たようなもので，運営・接客等は国民性の違いが反映されると考えられる。次回 1998 年の第 8 回 WCAP はケニヤも立候補していたが，東京に次いでアジアで 2 回目になる韓国，ソウルで開催されることが決まった。次期 WAAP 会長はソウル大学前農学部長の In K. Han 教授で，WCAP の事務局長は友人でもあるソウル大畜産学科長の J. K. Ha 教授が務める。

今回のカナダ渡航に際し，支援を賜った(財)帯広畜産大学後援会に深甚の謝意を表します。

エドモントンコンベンションセンターにて
ガーナ出身のアルバータ大研究者と筆者

アルバータ大学
附属農場で古村先生と説明を受ける